

ここが問題！リニア新幹線 2013.9.7

リニア新幹線NEWS No. 10/リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会発行

ML think-linear2@yahoogroups.jp

HP <http://web-asao.jp/hp/linear>

全国から山梨に結集

特集「リニア実験線再開抗議」(1~2面)

ただスピードの追求にのみリニアは走る



(試験走行出発式が行われた見学センター)



(見学センター門前での抗議行動)

8月29日、山梨県都留市の県立リニア見学センターで、JR東海によるリニア実験線の走行試験再開出発式が行われ、太田昭宏国交大臣やリニア沿線の各県知事らが出席した。出発式で、JR東海の葛西社長は「21世紀の新しい超高速輸送をリニアが走り始めることは、世界の交通技術史上に記念すべき足跡を残す出来事」と自画自賛、「走行試験を積み重ねて磨きをかけ、27年の営業運転開始を目指す」と挨拶、太田国交相は試乗後「リニアは日本の社会を劇的に変える技術。国としてJR東海にどのような支援ができるか考えたい」と述べた。

出発式には約100人の報道陣も招待され、午後から車両に試乗した。走行音はかなりひどく、そのためあかり部分にコンクリート製フードをかぶせるものとみられ、試乗した記者は「揺れを感じる」とか、たった9分(500キロ走行は90秒)乗っただけで「船を降りた時のような足のふらつきを感じた」などと感想を記事にしていた。

リニア山梨実験線は一昨年9月に走行試験を中断し、18.4キロの路線を約2倍の42.8キロに延伸する工事を進めていた。この間、トンネル工事により笛吹、都留、上野原など市内多数カ所で地下水が枯渇した。生活用水として地下水を使っていた地域では、JR東海が市内の上水道を民家につなげるなど応急対策をとった。また、膨大な工事残土は笛吹市などの谷や沿線の桃畑を平地にして埋め立てた。さらに、あかり部分の軌道建設により農地が長時間日陰になるなどの被害も出ている。

最新技術でもないリニアは日本の未来に必要な

半世紀以上開発に費やしながらか超電導リニアが実現するにはさらに10数年を要する。車両や駅を磁気シールドで密封し、在来新幹線の3倍以上の電力を使い、自然を破壊し、市民生活に大きな影響を与えるリニア新幹線のどこが最新技術なのか。世界はすでにリニア鉄道の開発を断念している。(写真=中野渡、伊藤貴、天野~次ページも)

山梨から全国に届けよう、リニア新幹線計画の凍結・再検証の声を！ 走行試験再開反対で現地抗議行動！



リニア山梨実験線走行試験再開に抗議して、私たちリニア新幹線沿線住民ネットワークは8月29日当日、午前9時半にJR中央線大月駅にクルマで集合し、現地に向かった。出発式のセレモニーが行われた都留市の山梨県立リニア見学センターはクルマで10分ほど。出発式の始まる午前9時5分過ぎから、見学センターから中央道河口湖線を挟んだ農道で、試験再開反対の集会を開いた。「南アルプスにトンネルを掘るな！」「勝手に大深度トンネルを掘る

な！」といった「リニア・コール」を叫んだが、いかんせん見学センターから離れており、声も届かず歯がゆい思いが募る。参加者から、見学センター前でやろうという声があり、見学センターに移動し、入口を入った実験線の軌道下で何度も「リニア・コール」を繰り返した。山梨県警の公安？警察官が来て、「許可が出ていないので止めて下さい」との警告。でも、太田国交相が帰途につくため通るかも知れないので、1時間ほど横断幕を掲げたり、走行試験反対を叫んだりして時間を稼ぐ。



出発式取材の報道陣もカメラを向けていた（のに記事に載らないのはなぜ？）。報道陣対応や警備にあたるJR東海の社員も黙って、私たちの抗議行動を見つめていた。社員も社内で声を上げて下さい。

この夏40度を記録した山梨県だけに、この日の見学センター前は35度を超える猛暑。農道は強烈な日差しを遮る影も無く、アスファルトの照り返しもあってめまいがするほど。しかし、リニア計画凍結に燃えるリニア沿線ネットのメンバーは元気いっぱい。水分補給のためのペットボトルを手に、午前11時半までおよそ2時間にわたる抗議行動を無事完遂した。

参加者はこのあと、みどり山梨の案内で実験線の東端部分（上野原市）の視察に向かったが、残念ながら道に迷ったようで、視察を断念、途中の車両基地を外から視察した。車両基地は平地ではなく、山間部にあり、幅50メートル、長さ200メートルほどの小規模なサイズだった。このあと、地元の方が経営する食堂「おごっそうや」に移動、簡単な昼食を済ませ、最後の視察地である、実験線の生誕地点（笛吹市）に向った。梨畑が広がる丘陵地から見ると、まだフードを被らない実験線は平地を突っ切り、その下には民家が相当数建っている。住民の皆さんは転居するのだろうか、それとも電磁波や騒音に悩まされながらそこで暮らすのだろうか。5月に来たときにはリニアを見おろす工事ヤードには残土が山盛りになっていたが、いつの間にか整地されていた。

リニア計画、社内で声を上げてください！

J R東海社員向けに、品川駅で3回目の早朝チラシ配布

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会は8月26日午前7時過ぎから、J R品川駅港南口のJ R東海「大井新幹線車両基地行」バス停で、通算3回目となるチラシ配布を行った。品川駅には、J R東海東京本社、リニア推進本部、東京環境保全事務所があり、いわばリニア計画推進の総本部です。そのおひざ元でのチラシの配布は、直接的な行動として意味があると考えます。

前日の雨もやみ、29日の品川駅周辺は、残暑も和らぎ、またいつものビル風も無く、チラシ配布には絶好の日和となりました。

男性6人、女性4人の参加者は、バス停に並ぶJ R東海や関連会社の社員一人一人に、「リニアについて社内で会話がありますか」、「皆さんはリニアに賛成ですか」などと話しかけながらチラシを配布しました。

チラシの内容は、「リニア新幹線が出来ても、結局は東海道新幹線と利用客を奪い合うだけであり、9兆円もの投資が回収されず、採算倒れのツケは国民に回される」、「7月24日の川崎市、同30日の町田市の説明会でも、会場からの市民の意見や質問は、安全対策や環境対策に対し疑問と不安の声ばかりだ」というもので、J R東海社内でもリニア



ア計画について詳細に社員に説明されていないのではないかという推測から、出勤する社員に対し、「社員の皆さんは、沿線住民の声に耳を傾け社内でも声を上げて下さい」と訴えました。



ました。

この朝は450枚のチラシを手渡しで配布しましたが、受け取りは良く、バスを待ちながら、また車内で熱心にチラシを読んでいました。無言で受け取る人が多かったものの、「頑張ってください」とか、笑顔で「ご苦労様」という社員も前回よりもかなり増えており、私たちも心強い気持ちになりました。

(8月27日、参加者記、写真＝鈴木宏子)

次世代加速器立地評価会議「北上山地が候補最適」～建設費8300億円のムダ

宇宙誕生のカギを握るヒッグス粒子の解明を目的に大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の国内誘致の動きが加速している。超電導技術はリニア新幹線と同じもの。すでにスイスには大規模なILCがあり稼動している。日本学術会議は「日本の費用負担は8割以上。巨額の負担は他の学術分野の研究費に影響を与える。誘致は時期尚早である」という見解を表明している。

全額自己負担の嘘を自ら証明～JR東海・葛西会長「リニアができれば東海道新幹線は大赤字」、「リニア建設は国策であり、国は三分の一を負担すべき」～25年前の講演で語る

1988年10月、JR東海の葛西敬之会長（当時常務取締役、リニア対策本部長）は関西経済連合会で講演し、概略以下のように話した。

『リニアには5つの利点がある。①浮上走行なので時速500キロが可能。在来型鉄道では300キロが限界。②リニアは12～16両で千人を運べる大量輸送機関。③建設費、オペレーションコストからみて、リニアは比較的成本が安い。④東海道、山陽新幹線の大きな弱点は騒音、振動。リニアは無公害。⑤レールの場合のような脱線はないので、リニアの安全性はレールと同等かそれ以上に安全』

『リニアの建設費は3兆円。航空運賃と同程度で東京～大阪を運びうる。輸送量は一日10万3千人となる。そのうち、8割は東海道新幹線からの転移。残る2割は在来線、航空機などからの転移。これらを前提にリニアの30年間の収支を利率7%として現在価値に直すと、投下資金3兆円に対して4兆3千億円の回収が見込める。』

『リニアができれば東海道新幹線の客は半分以下に減るので、30年間で2兆5千億円の赤字になる。リニアが1兆3千億円の黒字、東海道新幹線が2兆5千億円の赤字ということは、3兆円投下して回収不足が1兆2千億円出ることになる』

『このことは、二つのことを意味する。東海道新幹線とリニアは一元的に経営されなければならないが、もう一つは全額を民間資金で行うことは難しいということだ。3分の2は民間資金で行ってもいいが、残る3分の1は国の金が必要ではないかという見通しを立てることができる』

JR東海は説明会で「リニア建設のツケを国民に負担させることは無い」と繰り返してきた。しかし、今、葛西会長の前述の発言に応えるかのように、国がリニア建設費の一部負担するような動きが見られる。その一つは、最大5兆円の借入れの利子補給を政府が負担する動き、もう一つはJR東海のリニア用地の取得にあたって不動産取得税、登録免許税の免除を国交省が認めたことだ。その理由はJR東海という1民間会社の事業だが、整備新幹線という公共事業だからという。こうした動きをみると、ある時は民間事業、ある時は公共事業を前面に、税金から少力でリニア建設費を出させるため、国交省とJR東海が国民を欺く出来レースをしているように思えてならない。

説明会記録冊子の配布に協力を！

東京・神奈川連絡会は、7月24日のリニア川崎説明会と30日の町田説明会の全容を記載した小冊子『中央新幹線計画川崎・町田説明会全記録』を作成し、現在市民にカンパ300円で配布しています。活動の幅が広がるにつれそのための資金が必要となります。

これから、準備書が出され、市民への一層の広報活動が増えます。また、この小冊子には説明会開催に向けての連絡会の活動が詳細に記されていますので、事業主体や県・市など行政当局とどのように交渉したらいいのか、すでに市民活動をされている方にも大いに参考になるでしょう。

会員を拡大しましょう！

会費は年間1000円です。振込は下記へ。

郵便振替口座記号番号：

00120-3-489093

口座名：

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

リニア新幹線 NEWS No. 10

<発行>

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

<発行責任者>

天野捷一 044-866-5785

懸樋哲夫 042-565-7478